

平成 22 年 6 月 10 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007 ～ 2009

課題番号：19520331

研究課題名（和文） 日本語と韓国語の非対称構造に関する基礎研究

研究課題名（英文） Basic Research on Linguistic Asymmetric Structures  
in Japanese and Korean

研究代表者 野間秀樹（Noma Hideki）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：30237870

研究成果の概要（和文）：本研究は日本語と韓国語における次のような問題を扱った：1) 話されたことばと書かれたことば，2) 形態音韻論と正書法，3) 同定辞 *-ita* と *-da*，4) 丁寧化のマーカ *-yo/-iyo*，5) スピーチレベル，6) 引用構造，7) 省略。

研究成果の概要（英文）：This study investigates the following: 1) spoken and written languages, 2) morphophonology and orthography, 3) identifiers *-ita* and *-da*, 4) politeness marker *-yo/-iyo*, 5) speech levels, 6) citation structure, and 7) ellipsis in Korean and Japanese.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1200,000	360,000	1560,000
2008 年度	900,000	270,000	1170,000
2009 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2700,000	810,000	3510,000

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：

キーワード：対照言語学．言語存在論．言語場．措定辞．待遇法．引用．省略．形態音韻論．

## 1. 研究開始当初の背景

日本語と韓国語の対照言語学的な研究を行うにあたって、とりわけ表現のありようの問題については、その基礎研究が切実に必要とされていた。

## 2. 研究の目的

日本語と韓国語の表現のありかたの違いを、非対称構造という点から照らしてゆくための基礎研究を行うことにある。

## 3. 研究の方法

理論的な研究と言語事実の収集とデータ化という基礎資料の構築を2本の柱とする。

## 4. 研究成果

言語理論一般および対照言語学の基礎理論の研究を行い、日本語と韓国語の言語事実のうち、非対称的な構造を見せる部分について重点的に記述し、それら言語事実のありようを踏まえて、理論的な総合を行った。

理論的な研究においては、〈言語がいか  
に在るか〉という観点から、(1)言語が実際  
に実現する言語場の問題、(2)〈話されたこ  
とば〉と〈書かれたことば〉の位相的な違  
いに関する問題、(3)文体としての〈話しこ  
とば〉〈書きことば〉と言語の存在様式と  
しての〈話されたことば〉〈書かれたこと  
ば〉の峻別の問題、(4)言語として現れるも  
の／現れないものについての問題、(5)〈省  
略〉論の問題、(6)主語＝述語文の問題など  
について重点的な理論的研究を行った。こ  
うした原理論的な問題の検討なくして、言  
語の対照研究はなしえないことも、本研究  
の重要な到達点である。

とりわけ、〈話されたことば〉と〈書か  
れたことば〉の違いについては、既存の研究  
で行われてきた文体としての〈話しこと  
ば〉と〈書きことば〉との違いとは決定的  
に異なった重要性を有することが見て取れ  
る。(4)–(6)は互いに深く関わる問題であり  
、表現のありようの違いのみならず、文法  
論を記述する根底的な立場を大きく左右す  
る問題でもある。

非対称的な言語事実については、(1)形  
態音韻論と表記論の問題、(2)日本語の措  
定辞「だ」と韓国語の措定辞＝指定詞 -ita  
および丁寧化のマーカ―yo/-iyoの違い、  
(3)待遇法の問題、(4)引用構造の違い、な  
どについてとりわけ重点的な記述を行なっ  
た。

2008–2009 年にかけて、朝鮮学会の学会  
誌『朝鮮学報』、雑誌『國文學』、韓国の  
培材大学校『韓国語教育研究』、研究書『  
韓国語教育論講座』第4巻、などに論考の形  
で成果を発表し、一部については韓国語学  
習書にも成果を盛り込んでいる。言語研究  
のみならず、韓国語教育についても研究の  
成果が活用されている。

なお、これらの成果の一部はさらに2010  
年に刊行された『ハングルの誕生——音（  
おん）から文字を創る』（平凡社新書）や  
『きらきら韓国語』（同学社）にも活かさ  
れている。

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

野間秀樹、朝鮮語の教科書が目指すもの、  
『外国語教育研究』第11号、2008年、  
pp.129-151. 外国語教育学会、依頼原稿

野間秀樹、言語を学ぶ根拠はどこに在るの  
か：韓国語教育の視点、『ハングル』282号ハ  
ングル学会100周年記念号、pp.235-276、  
ハングル学会(韓国)、依頼原稿(韓国語で  
執筆)

野間秀樹、待遇表現と待遇法：いくつかの  
視角、『韓国語教育研究』第4号、pp.57-104、  
培材大学校韓国語教育研究所(韓国)、依頼  
原稿(韓国語で執筆)

野間秀樹、音と意味の間に、『國文學』2008  
年10月号、第53巻14号、pp.58-69. 學  
燈社、依頼原稿

野間秀樹、現代朝鮮語研究の新たな視  
座：言語はいかにかに在るかという問いから—  
—言語研究と言語教育のために、『朝鮮学  
報』第212輯、pp.1-66. 2009年、朝鮮学  
会、依頼原稿

野間秀樹、ハングル—正音エクリチュ  
ール革命、『國文學』2009年2月号、第54  
巻2号、2009年、pp.46-55、學燈社、依  
頼原稿

野間秀樹、引用論小考、『朝鮮半島のこ  
とばと社会——油谷幸利先生還暦記念論文集』  
油谷幸利先生還暦記念論文集刊行委員会編、  
2009年、明石書店、依頼原稿

〔学会発表〕(計7件)

野間秀樹、第4回韓国語教師研修主任講師。  
2007年8月6日–11日。於：工学院大学  
新宿キャンパス。韓国大使館韓国文化院 主  
催、招待講義

野間秀樹、韓国語教育のアイデンティティ  
定立のために」主題招待討論。2008、第  
17回国際韓国語教育学会国際学術大会(原  
題韓国語)

野間秀樹、「ことばを学び＝教えることを考  
える」「韓国語教材をいかに作り、いかに選  
ぶか」韓国語教師研修2008。2008年8月  
11日。大阪：大阪国際交流センター、招待  
講義

野間秀樹、朝鮮語の教科書が目指すもの。  
2008年、於：東京学芸大学。外国語教育学  
会、招待発表

野間秀樹、言語を学ぶ根拠はどこに在るの  
か：韓国語教育の視点、2009、ハングル学会  
100周年記念国際学術大会、ハングル学会(韓  
国)、招待講演(原題韓国語)

野間秀樹、待遇表現と待遇法：いくつかの  
視角、2008、日韓韓国語教育国際学術大会、  
於：麗澤大学、招待発表(原題韓国語)

野間秀樹、現代朝鮮語研究の新たな視  
座：〈言語はいかにかに在るか〉という問いから  
——言語研究と言語教育のために——。第  
59回朝鮮学会大会公開講演。2009、招待  
講演。2007–2009年度科学研究費補助金  
基盤研究(C)報告書。全133頁。

〔図書〕(計3件)

野間秀樹・金珍娥、白水社、『ニューエク  
スプレス韓国語』2007、160頁

野間秀樹・村田寛・金珍娥、朝日出版社、  
『Campus Corean はばたけ！韓国語 第

2版』2008年，全232頁  
野間秀樹編著，くろしお出版，『韓国語教育  
論講座 第4巻』2008，817頁（うち107頁  
分を執筆）

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

野間秀樹 (Noma Hideki)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・  
教授

研究者番号：30237870